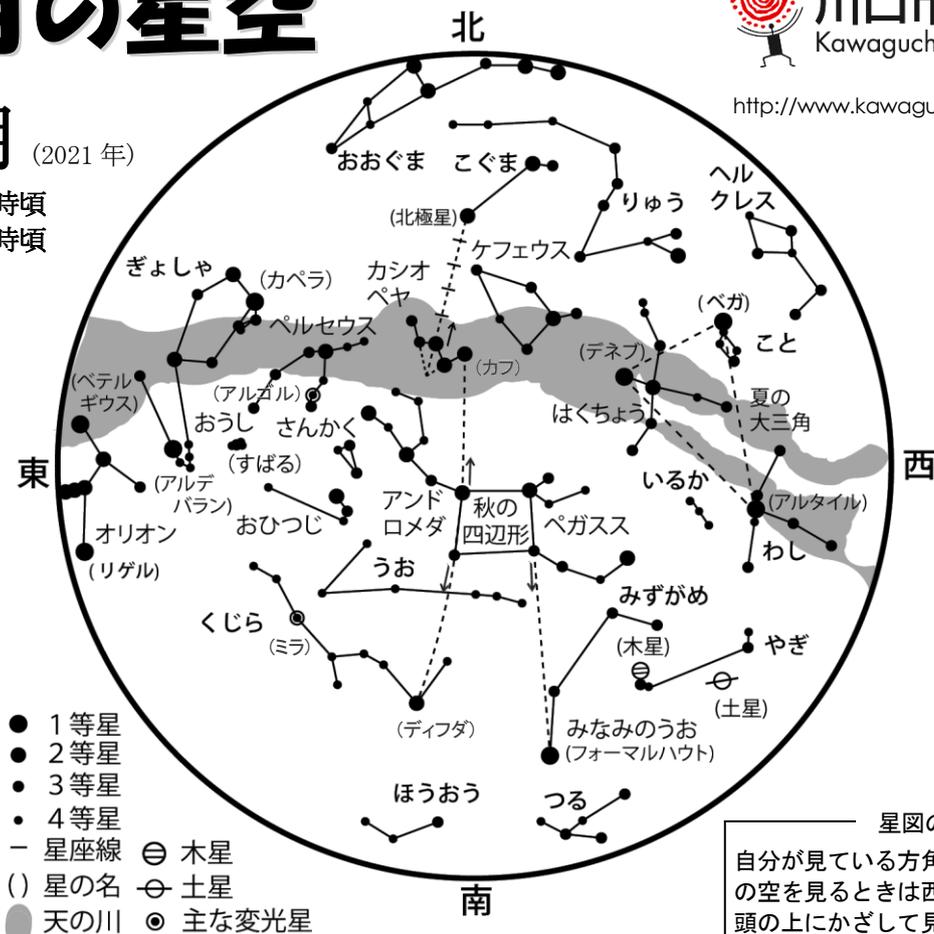


今月の星空

11月 (2021年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 5日、● 上弦 11日、○ 満月 19日、● 下弦 27日

惑星情報 金星 夕方 南西(へびつかい→いて座 -4→-5等)

木星 夜のはじめ頃 南→南西(やぎ座 -3→-2等) 土星 夜のはじめ頃 南西(やぎ座 1等)

☆秋の夜長にみるカシオペヤ座と地球の自転

秋の星座の中で2等と3等の5つの星が“W”の形に並ぶカシオペヤ座は、市街地でも見つけやすい星座の一つです。この星座は、北の方角を示す北極星を見つける目印になります(見つけ方は星図参照)。秋から冬にかけて、宵の頃は北の空高くにあり、“W”を逆さにした“M”型に見え、その形から日本では“やまがた(山形)星”とも呼ばれます。

さて、夜空の星々は、地球の自転により北極星を中心に回るように見えます。北極星の近くにあるカシオペヤ座は、川口市では地平線下に沈まず、一晩中見ることができます。中旬には、日没後、北東の中ほど高さになり、時間とともに北に向かって高度を上げ、明け方には北北西の低空に移ります。夜の長いこの時期は、カシオペヤ座が北極星をめぐる様子が見られます。

☆19日 皆既に近い部分月食を見よう

5月26日以来、今年2度目の月食が起こります。今回は地球の影がほぼ月全体を覆う(食分 約0.98*)、皆既に近い部分月食です。

また、月が地球の影のどの部分を通るかで、見え方が変わります。月が欠けていく様子はもちろんですが、食の最大の頃は、皆既月食時に見られるような赤みを帯びた月が見えるかどうか注目です。

月食の進行は右図のとおり。月の出16時27分時点で、部分食が始まっていて、月が欠けた状態で昇ってきます。空が十分暗くなり、月の高さが15度を超える18時2分に食の最大を迎え、19時47分に部分食が終了します。全体を通して、月の高度が低いので、北東から東方向が開けた場所で観察しましょう。

※食分 約0.98…地球の影が月の直径の約98%まで入り込むこと。

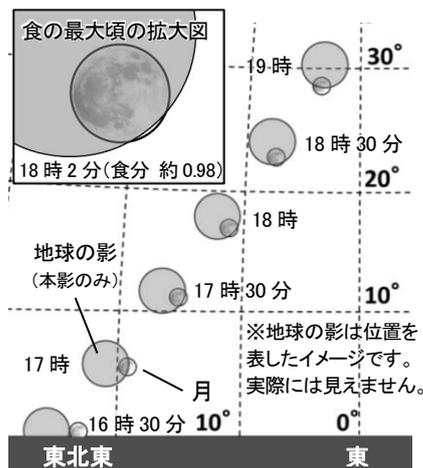


図 11月19日 部分月食の進行 (StellaNavigator/AstroArtsを基に作成)

科学館では天文台で撮影した月食の様子をライブ配信する予定です。